

# おぼろげな会ニュース

## 第18回通常総会開かれる

らいてうの家、12年目を迎えて

5月21日、第18回通常総会が東京ウイメンズプラザで開催されました。杉山洋子副会長の挨拶のあと、審議に入りました。



審議は、小林明子事務局長の2016年度の事業報告から始まりました。16年は「らいてう生誕130年、NPO法人発足15年、らいてうの家10周年という記念すべき年で、さまざまな記念事業に取り組みました。

記念シンポジウムは、8月28日には真田中央公民館で「地域に根ざし、平和とくらしをまもる」と題して、パネリスト・

上野千鶴子さん、古田睦美さん、米田会長で行われ、東京では11月19日に四谷の主婦会館で「それぞれの言葉で語る『平和』から、わたしたちの現在をを考える」をテーマに、ノーマ・フィールドさん、青井未帆さん、米田会長で行われました。また10周年を記念して、家を支えてきた人々によ

る文集も出版しました。

8月には突然、HJアセット・マネジメント社による大規模ソーラーパネル設置問題が起こりま破壊につながると周辺自治会などとともに反対運動に取り組みましたが、予断を許さない状況です。

2017年度の事業計画は、昨年の記念事業の続きとして、「らいてう」ブックレットや「家」紹介のDVDの作成、らいてう資料の保存とデジタル化があります。「家」の企画展示は「自然とともに生きた りいてう」で、らいてうのあまり知られない一面を紹介しています。また、例年通り「らいてう講座」や「森のめぐみ講座」「紫式部からのメッセージ」「昔語りの会」「スノーシュー体験」などを行います。「紀要10号」は7月に発行予定です。ソーラーパネル問題には、計画断念まで引き続き取り組んでいきます。

決算では、記念事業のためのカンパへの多くの方のご協力が報告されました。ありがとうございます。「家」は今年12年目を迎え、改修・修繕や備品の更新などが増えてきています。皆さまのお力添えで乗り越えていきたいと考えています。

討論では、ソーラーパネル問題や「家」の維持管理問題が話し合われ、さらには現在の政治・社会状況、とくに憲法改悪問題など、「女性がいかに

発行  
平塚らいてうの会  
〒112-0002  
東京都文京区  
小石川  
5-10-20-5F  
TEL・FAX  
03-3818-8626

に平和を作っていくか」、らいてうの志を継ぐ必要性が話されました。

役員改選では、長年事務局長として活躍した小林明子さんが勇退し、金輪きみ子さんが就任し、副会長も増員しました。「家」の12年目を迎えて、新しい力で会の活性化を図り、もつともっと多くの方にらいてうのこと、平和のことを伝えていくことが必要です。

### 今年度役員

会長・米田佐代子 副会長・井上美穂子(新)、折井美耶子、小林明子(新)、杉山洋子、花岡静枝、堀江ゆり、三留弥生(新) 事務局長・金輪きみ子(新) 理事・飯村しのぶ、植草充代、木村見江、沓掛美知子、久野泉、倉橋純子(新)、小林典子、関町好子、富松裕子、藤原美津子、山田繁子、若尾伸子 監事・佐久間由美子、中嶋保枝

### 『紀要10号』 7月に発行

「らいてう生誕130年記念事業」をふりかえつて(米田佐代子) / シンポジウム記録 地域に根ざし平和とくらしをまもる(上野千鶴子・古田睦美・米田佐代子) それぞれの言葉で語る「平和」から、わたしたちの現在をを考える(ノーマ・フィールド・青井未帆・米田佐代子) / りいてうの家と太陽光発電問題(林 一六 他) / 『青鞥』発刊以前の平塚らいてう(明)(奥村直史) / 平塚らいてうと「優生思想」覚書(折井美耶子)

頒価 700円

らいてうの家 オープン・4月29日

オープニングは男声合唱団「我謝」のハーモニイです。12年目を迎えた「家」の木ぬくもりいっぱいホールに響き渡りました。82名の参加で階段上のロフトも人であふれていました。地元の滋養溢れるお弁当と春の茶会に笑顔のみなさんでした。

参加してくださった、元国際婦人年大阪の会代表の宮本英子さんに感想をいただきました。



今年はとても参加できないと思っていたら、望月町の友人の羽田さんのお誘いで参加でき、すてきな男性合唱団に心洗われ、落ちこんでいた心が解放され、涙を流しました。世界の情勢がきな臭くなる中、これを機に私ももう少しがんばらねばという勇気をいただきました。今日の集いはみなさんの心に平和への願いを深くきざんだことと思います。平和への思いをさらに深めることのできた集いでした。



2017年らいてう忌 日帰りツアー 春秋苑と茅ヶ崎 らいてうゆかりの地を訪ねる

今年の「らいてう忌」は6月4日(日)、お天気に恵まれ25名の参加で、無事終了しました。

最初に川崎市南生田の春秋苑にある、らいてうのお墓にお参りしました。奥村直史さん、洋さんご夫妻が先にお見えになって、草取りもお掃除もきれいに済ませ、新しいお花も活けて下さっていました。私たちも順にお線香をあげお参りしました。ご夫妻にお別れし、春秋苑を後にしました。

バスの中では、折井副会長から、らいてう碑を建てたときの苦労話やらいてうと博史の南湖院での出会いを、米田会長からはらいてうのペンネームの由来や『青鞥』のこと、そしてソーラーパネル問題の現状を話していただきました。

茅ヶ崎市高砂緑地公園へ。らいてう絵葉書で見るより大きく立派な碑です。碑には「元始女性は太陽であった 真正の人であった りいてう」と刻まれています。用意してきた花鉢を碑の前に並べました。

茅ヶ崎在住の安倍澄子さんが「何かお手伝いしましょう」と、高砂緑地公園に来てくださいました。「茅ヶ崎館」まで案内していただき、昼食にも参加され、お世話になりました。

映画監督の小津安二郎が定宿とした「茅ヶ崎館」は1899(明治32)年創業、建物は国指定有形文化財として登録されています。食事の間に庭や現在も旅館として使用している部屋を見せていた

いただきました。参加者の交流もここでしました。

ゆったりとした食事の後は、「南湖院記念 太陽の郷庭園」と旧第一病舎を見学。2015年12月に旧南湖院第一病舎と周辺の土地が茅ヶ崎市に寄贈され、旧第一病舎はこれから改修に取りかかるそうです。改修工事が済み次第、内部も公開される予定とのこと。

『青鞥』の同人たちは、この100年以上前の病舎で編集会議をし、そしてこの病舎で、らいてうは奥村博史に出会ったんですね。



結核療養所南湖院は1945年5月、海軍により全面接收され、翌1946年8月には連合国に接収、その後在日米軍施設キャンプ茅ヶ崎の一部となり、1956年接收解除となったそうです。いろいろな変遷の中で、この旧第一病舎が残り、茅ヶ崎市に寄付され、保存されることが決まりうれしいですね。

一通り見学は終了。実のところ、茅ヶ崎海岸の砂浜を歩きたい、『青鞥』同人たちが船遊びをした相模(馬入)川の近くまで行ってみたい、などの要望もありましたが、帰路の状況の心配もあり、残念でしたが、そのまま帰ることにしました。

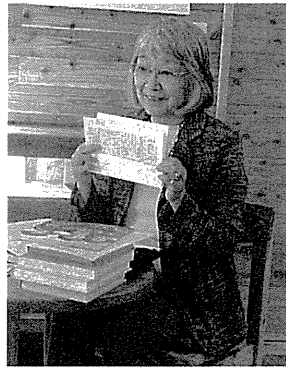
(井上 美穂子)

## 日本の婦人参政権運動とらいてう

権利の上に眠らない

5月28日(土)、今年度第1回「らいてう講座」がらいてうの家で開催されました。爽やかな風が心地よく、新緑が陽に輝く中、参加者は20人余、講師の折井美耶子さんのお話を熱心に聞きましました。内容の概要は以下の通りです。

最近、映画「未来を花束にして」を観た。イギリスの婦人参政権運動を題材にしているが、そのエンドロールの世界各国の女性参政権実現状況の



中に日本が入っていないことが驚き、少なからず不満を持った。朝日新聞の「天声人語」には「日本の参政権は、マッカーサーの指令で実現した」とあり、戦前からの日本の婦人参政権運動は無視されたという残念な想

いが強い。正しい歴史を知らなければならぬ。

## 自由民権運動の中で：明治初期

自由と民主主義を求める自由民権運動の中で女性たちも動いた。自由民権運動発祥の地高知で、まず楠瀬喜多(土族の妻)(1833-1929)が、夫の死後、戸主となるも女には選挙権がないことを不服として「納税ノ儀ニ付御指令願ノ事」と、県庁に伺い書を提出する。その他、岸田俊子、福田英子ら自由民権運動に参加し

た岡山、神奈川、静岡、仙台、愛知等の女性たちが自由民権運動に参加した。

## 新婦人協会の運動：大正期

日本で最初の全国的市民的な女性運動団体である新婦人協会が、らいてうの発起、市川房枝への呼びかけで始まった。らいてうは34歳、それまでの活動や自己の結婚・出産・育児等を通して、女性の社会的政治的地位の低さを身をもって感じ、また世界の動きに敏感で外国の資料にも詳しくかった。新婦人協会を中心とした運動の結果、治安警察法第5条2項の改正(政談集会への参加)等多くの成果がもたらされた。

その後、関東大震災の被災者救援のため首都の女性団体が大同団結し、東京連合婦人会を結成。そこから婦人参政権獲得期成同盟会が生まれた。アメリカから帰国した市川房枝を中心に、久布白落実、金子しげり、河崎なつ、長野県から児玉勝子が参加した。

## 婦人参政権獲得の運動

1925年に普通選挙法(男子のみ)が成立し、28年に最初の選挙が行われた。無産婦人団体も加盟した婦選獲得共同委員会も発足。30年には第1回全国婦選大会が、600人余の参加者をえて盛大に行われた。しかし、31年満州事変が始まり、戦時下、治安維持法による弾圧も強化されるなかで、婦選運動は急速に低迷し、40年には婦選獲得同盟はついに解散となる。戦争は女性の敵、戦争と女性の権利は相容れないものである。

## 戦後の運動

1945年8月25日敗戦から10日、早くも戦後対策婦人委員会を設立し、市川、山高、久布白らが、直ちに政府と各政党に婦人参政権実現の申し入れをしている。そして、1945年10月10日幣原内閣の初閣議で女性の選挙権を決議した。しかし翌11日GHQの五大改革指令により「女性の解放と選挙権の賦与」がなされた。1946年4月第1回総選挙で39人の女性議員が誕生した。

こうして歴史を俯瞰してみれば、女性の選挙権獲得は「マッカーサーのプレゼント」ではなく女性たちが運動の中で勝ち取ってきたものであることがはっきりしている。先人の女性たちが闘い取ってきた権利だが、現在はどうか? 「世界女性国会議員比率」のランキングで日本は193国中159位という低い位置に甘んじている(先進国の中では最下位)。戦後70年以上経ているのに女性議員の比率があまりにも少なく残念に思う。市川房枝は「権利の上に眠るな」と言い残している。今女性たちは眠っていないか、自分たちに問い直していききたい。

講演の後、参加者から「戦後、女性の選挙権初行使の時、どうしたら平和になるかという思いで投票した」との貴重な発言もあり、らいてうを中心に、戦前から多くの先人、女性たちが婦人参政権獲得のための闘いを積み上げてきた結果、現在があることを学ぶことができました。そしてその努力を無駄にしない私たちの決意が大事なことも

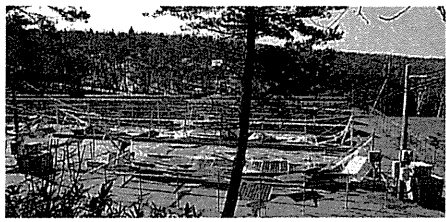
(若尾 伸子)

### ソーラーパネル設置反対運動の現状

株式会社HJアセット・マネジメント社が、あずまや高原のらいてうの家の道を隔てた真ん前の土地2万1千平方メートルに出力899kwの「太陽光発電」の設備として大規模ソーラーパネルの設置計画を告知してから約10カ月がたちました。表面上は「ホテルで使う重油の環境負担を減らす」ためとされていますが、目的は海外資本による売電営利事業であることは自明です。

この間「国立公園内の自然と地域の歴史・文化を破壊するような太陽光発電計画」は断念するよう働きかけを行ってきたことは「平塚らいてうの会ニュース」でお知らせしてきたところです。

それらの動きに対しHJアセット・マネジメント社は「簡易アクセス」を行う旨通告してきました。当初「4月着工」予定でしたが延期され、6月現在アクセスについての動きもなく、会に何の連絡もありません。しかし地元紙の東信ジャーナル



に対して「建設計画は変更しない。来年着工予定」と回答しています(4月29日付)。  
長野県議会は昨年12月2日太陽光発電設備建設により「各地で地域住民と事業者のトラブルが多発発生している」ことを取り上げ、国に対し「太陽光発電施設建設に係る法整備等を求める意見書」を出すことを全会一致で可決しています。一方上田

市では「太陽光発電施設の適正ガイドライン」が4月1日付で施行され、あずまや高原を含む国立公園全域は「立地を避けるべきエリア(レッドエリア)」に指定されました。

菅平の隣、峰の原に設置されているソーラーパネルが今年の雪の重みでつぶれました(写真)。  
見事なつぶれ方です。一年の三分の一近くが雪に埋もれるあずまや高原で、電力のコンスタントな供給にはリスクが大きすぎると思われます。

5月31日から6月2日にかけてあずまや高原は大雨・ひょう・雪の大荒れの天気になり、らいてうの家の横の側溝があふれ土がえぐれて流されました。「家」の前の坂道(市道)はホテルの方からたくさんの石や土砂が流れてきて修復に2日かかるという事態になりました。

今回のことから、ここに太陽光発電設備を設置するのは「不適切」と言わざるを得ません。白紙撤回をせまる様々な条件がそろってきたと思います。

大日向自治会は太陽光発電設備設置工事反対の決議をし、6月15日、「計画」の許可をしないよう求める要望書を環境大臣宛てに提出しました。らいてうの会の理事会でも6月8日、「計画の白紙撤回を求める決議」を上げ、要望書と一緒に提出しました。これまでに集まった署名も近く環境省に提出する予定です。今後は地元の各自治会とも協力して「計画」の「白紙撤回」をせまっていきます。

のどかな「あずまや高原」、美しいらいてうの家をと願っています。  
(植草 充代)

### 【事務局日誌】

- 4月17日 第5回常任理事会
- 4月23日 りいてうの家大掃除オープン準備
- 4月24・25日 りいてうの家展示準備
- 4月24日 米田会長が真田自治センター、大日向自治会長、山家神社などに挨拶回り
- 4月25日 東信ジャーナルが取材に来館
- 4月29日 りいてうの家オープン参加者82名
- 5月10日 第8回理事会
- 5月11日 2016年度会計監査を受ける
- 5月12日 葉草の森りんど開山式に出席
- 5月21日 第18回通常総会(於東京ウイメンズプラザ) 第1回理事会
- 5月28日 りいてう講座「日本の婦人参政権運動とらいてう」 折井副会長(於らいてうの家)
- 6月3日 あずまや高原自治会総会に出席
- 6月4日 2017年らいてう忌/茅ヶ崎に「らいてう碑」を訪ねるバスツアー
- 6月8日 第2回理事会

弥生美術館(東京都文京区弥生)  
「命短し 恋せよ 乙女」展 7/1-9/24

松井須磨子などともらいてうも登場。奥村家から「博史が描いたらいてうのスケッチ」や指輪、会からはらいてうの博史宛て書簡(1917)を貸し出しました。第2子出産後間もない頃で、らいてう31歳。書簡の最後に「私の只ひとりの大切な博さま 今どんな夢をみてゐるの?」と書かれ、一見の価値あり。どうぞ見てください。